

真言宗智山派

# 清龍山長圓寺

参道には百体の観世音石像がずらり

住職 宮里 孝 憲

茅野市玉川一三三七三

TEL〇二六〇七九一三七〇



▲長圓寺 本堂

慶安二年(一六四九)慶尊阿闍梨が、高野山金剛頂院の法流を相統して要穴山長圓寺と称した。当山は、初代住職武田慶尊阿闍梨が諏訪藩二代藩主諏訪忠恒公より境内地を賜り開山。延享二年(一七四五)火災のため焼失。同三〇四年に本堂と庫裡を再建し、火伏のため京都より大般若經六百卷を拝授し山号を清龍山胎藏院長圓寺と改める。時移り、

昭和五十六年檀信徒の総菩提所として本堂再建。続いて薬師堂を建立、諸祈願道場として毎月八日、当病平癒・諸願成就等の大護摩供を奉修。静岡県蓬莱山峰の薬師、愛知県法海寺とともに日本三薬師如来と伝えられる薬師如来は、上社の本地仏で廃仏棄釈の際当寺に移された。一本の大樹から三体の御尊像を彫ったもので、鎌倉時代の春日の仏師の制作。楓並木の参道の右側には、菊地道悦作の観世音石仏がずらりと百体欠けることなく並列。薬師如来、石仏ともに茅野市文化財に指定されている。令和元年十月二十日松本明慶大仏師作「子安観世音菩薩像」を入仏・開眼した。五月終わりにになると樹齢三百年、目通り五メートル二〇センチの栃の木をはじめ、ナンジャモ、ンジャ・白雲木・オオヤマレンゲなどの花が一斉に咲き始める。その後六月十日頃には大盃のサツキが、七月中旬には龍の顔に似たセンダンバノ菩提樹の花が、十一月五日頃には一行寺かえでのみごとな紅葉が楽しめる。

禅宗 臨濟宗妙心寺派

# 泰平山安国禅寺

開基は足利尊氏・直義兄弟

住職 後藤 耕雄

茅野市宮川二八一九

TEL七二一三三八九



室町幕府を開いた足利氏が、天ろは代々の藩主が参拝、焼香したほ下平定の後、戦乱で命を落としたか、京都本山との往来には沿道の宿人々を弔うために日本中の六十六駅に先触れがだされたほどである。力国に設けた安国寺の一つで、信濃の安国寺に当たる。千沢城のふもとの地に置かれ、開基は足利尊氏・直義の兄弟。創建は貞和元年(一三四五)と推定され、開山は夢窓疎石(国師)。それから約一世紀半後、戦渦に巻き込まれ伽藍は灰と化したが、諏訪満隣によって中興開基され、その子、頼忠を藩祖とする高島藩(江戸)時代を迎える。この歌講習も行っている。現在では地名と区別するため安国禅寺とも呼ばれ、その西北に歴代住職のお墓があり、その近くに永代供養墓もある。

## 永代供養墓

